

水稻湛水直播機の導入の目安と作業上の留意点

【1 直播機の導入にあたり（北上川下流・あきたこまちの場合）】

- (1)代かき同時打込み点播機(6条播き)は、1シーズンに24haの播種ができます。
- (2)条播機(多目的田植機装着用、6条播き)は、田植機本機を移植と半々で利用する場合、1シーズンに34haの播種ができます。
- (3)経済性からみた導入下限面積は、代かき同時打ち込み点播機(6条播き)で約10haです。
- (4)条播機(6条播き)の導入下限面積は、移植との田植機の使用割合により変わります。田植機を移植と半々で利用する場合の導入下限面積は約10haです。

表1 水稻湛水直播機の経費概要と導入の目安

	代かき同時打込み点播機	条播機 (田植機装着用)
購入価格	千円 1,568	2,360 (含田植機本機)
年間経費(固定費分)	千円 524	575
1シーズンの播種可能面積	ha 23.9	33.7
経済性からみた導入下限面積	ha 9.7	10.2

【2 カルパーコーティング後の風乾について】

- (1)カルパーコーティング後に種子を乾かしすぎると、播種時にカルパーが砕けやすくなり、苗立ちが低下したり、播種ロールがつまったりします。
- (2)コーティング種子の風乾は、白化した種子が数粒みえる程度が最適です。



図1 適度な風乾程度



図2 カルパーが砕けていない種子



図3 カルパーが砕けた種子

【3 播種時の土の硬さ】

- (1)湛水直播の苗立ちには、播種時の土の硬さが大きく影響します。
- (2)土の硬さは、ゴルフボールを1mの高さから垂直に落下させたときに何cm沈むか(以下、「落下貫入深」と表記)を目安とします。
- (3)代かき同時打込み点播機の播種作業に適する土の硬さは、慣行移植よりかなり軟らかめです。このときの土の硬さは、落下貫入深でおおよそ0cm~3cmです。
- (4)条播機の播種作業に適する土の硬さは、慣行移植と同じ程度です。このときの土の硬さは、落下貫入深でおおよそ-2cm~0cmです。

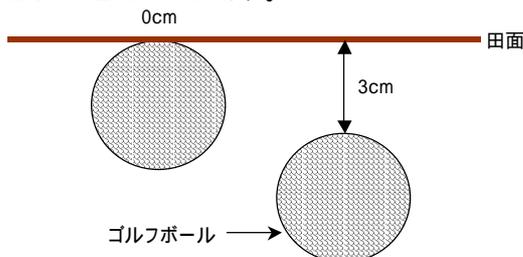


図4 代かき同時打込み点播機に適する土の硬さ

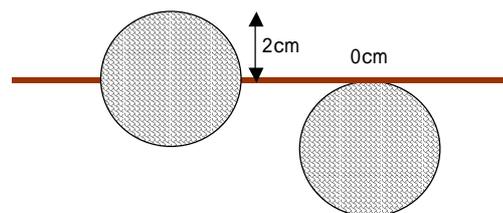


図5 条播機に適する土の硬さ